

平成29年度 授業改善推進プラン 調布市立若葉小学校

- ・第1観点: 関心・意欲・態度
- ・第2観点: 思考・判断・表現(話す・聞く)
- ・第3観点: 技能(書く)
- ・第4観点: 知識・理解・言語
- ・第5観点: 読む

【児童・生徒の学力向上を図るための調査結果の分析より】

- 【学力向上に関する学校経営方針】
- ① 週案による教育課程の管理と計画的な実践
 - ② 『各学級の取組32』の具現化
 - ③ 学習規律【若葉スタンダード】や生活指導の手引『わかばっ子』の徹底
 - ④ 教科指導の充実による基礎学力の定着
 - ⑤ 言語活動の充実
 - ⑥ 読書指導の充実
 - ⑦ 体験活動の充実
 - ⑧ 校内研究(主体的な学び、対話的な学び)・研修の推進
 - ⑨ 教室環境の整備・掲示物の充実
 - ⑩ 言語環境の整備
 - ⑪ 個に応じたきめ細やかな対応と支援
 - ⑫ 「学習のてびき」による家庭学習の推進

【都「児童・生徒の学力向上に関する調査結果分析内容」】

【教科の内容】に関して

- ・第1観点: 社会、算数、理科の関心度が高い。その中で国語科の関心度が9割を超えてはいるが東京都より低い。興味・関心を高める授業改善が必要である。
- ・第2観点: 考えたことを正確に判断し表現する力は平均より高いが、算数科が他教科にくらべて低い。題意をとらえて解決したり、自分の考えをまとめ、伝えたりする力が弱い。自分の考えを確実にもち、自力解決させる継続した指導が必要である。
- ・第3観点: 国語科や算数科の技能の数値が東京都の平均より10%以上高い。特に国語科の「書く力」は東京都より10%以上高い。しかし基礎的な技能が十分に身に付いていない児童(層)もいる。個に応じた指導や支援、補習の設定等、基礎・基本を着実に身に付けさせる指導の工夫が必要である。
- ・第4観点: 他教科に比べると、理科の言語の正答率が低い。覚えるべきことは、確実に覚えさせることが必要である。
- ・第5観点: 読む力は平均より高い。さらに持ち合わせている言語数を増やしたり、要点をまとめるような指導を各教科で取り組んでいく。

【読み解く力】に関して

(1)結果:どの教科においても都の平均以上である。特に国語科の解決する力と社会科の読み取る力は都の平均より10%以上高い。算数科の解決する力は都より6%高いが13.6%と低い。

(2)分析:必要な情報を正確に取り出すことはできる。しかし、何が問われているのかを読み取る正答率が算数科で下回っている。いくつかの情報を関連付けて読み取り、既習事項と照らし合わせて解決する過程を大事に指導していく必要がある。社会科や理科で使われる言葉の意味理解や自分の言葉に置き換えて解決する力が不足していると思われる。また事柄と事柄の関係を正確に読み取り、解決に必要な情報を整理する指導の工夫が必要である。

★本校の課題★ ①学習意欲の向上 ②学習規律の定着 ③文章や図表の正確な読み取り ④情報の分類 ⑤社会科・理科等で使われる言語の定着 ⑥理科的な思考力表現力の向上 ⑦言語力の向上

【授業改善の方針・目標】

基礎・基本の確かな定着を図り、自分で考え、ともに学び合う授業の創造

【授業改善のための具体的な取組】

【各学級の取組32】		【各教科の課題と手だて】		
学A 学習過程の工夫	1	めあての明確化	国語	<ul style="list-style-type: none"> ・説明の内容を正確に聞き取ったり、説明と話し合いの部分聞き分けたりすることに課題が見られる。 ・二つの資料内容を比較・関連付けて読み取る問題に課題がある。書かれている資料の意味内容をじっくり考えるように指導する必要がある。 ①日頃から与えられた情報を正確に判断し、話したりメモを取りながら聞いたりする練習をさせる。 ②漢字を構成するそれぞれの部分について、低学年のうちから正確に理解させ、漢字練習を積み重ねていく。 ③相手や目的に合わせた表現ができるよう、手紙やお礼文などの活動を取り入れていく。 ④分からない言葉は進んで調べさせ、辞書を引く習慣を付けさせていく。 ⑤意見文や感想文など、「書く」活動を取り入れていく。 ⑥書いた文章の主語、述語の関係等についての推敲をさせていく。 ⑦並行読書をさせ、読書活動へ発展させていく。 ⑧単元のねらいに即した言語活動を設定していく。 ⑨「国語タイム」「詩の広場」「ことばの広場」等を活用し、言語力を高めていく。
	2	単元の指導計画の表示(国語科)		
	3	自力解決ー学び合いー振り返りの流れの共通実践		
	4	効果的な板書計画のあり方の工夫		
	5	自分の考えを書く(まとめる)場の確保		
	6	意見交流の場(活動時間・思考時間)の保障		
	7	学習のまとめの記述(一言感想・日記・ワークシート等)		
学B 学習形態の工夫	1	ペア・グループ・小集団・学級全体等、学習内容に応じた形態の工夫	社会	<ul style="list-style-type: none"> ・地名や道具名などの言語の定着に課題がある。 ・知識として名称などを知っていても地域の特色を理解し結びつけて考える力に課題がある。 ・問題文を読み、図と照らし合わせ考える力に課題がある。 ①図、表、グラフ等の資料の示す事実やその意味について読み取り、それについての自分の考えをもてるようにさせる。 ②資料等を使い調べさせ、調べたことから考えたこと発表させたり、まとめさせていく。 ③地図に慣れ親しむ機会を増やしていく。 ④社会的な事象に日常的に触れさせていくようにする。
	2	グループ学習(等質・異質)による意見交流		
	3	課題・興味・関心別グループ学習や習熟の程度に応じたグループ編成		
	4	学習シート(ワークシート、ベーシックドリル等)の活用		
	5	音読カードやドリルを活用した自学の取組		
学C 指導方法・教材開発の工夫	1	「話し方名人・聞き方名人」の定着	算数	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力が必要となる文章題等の読み取りが不十分な児童が多い。 ①問題を最後までしっかりと読み取らせ、「分かっていること」「求めること」を確認させる。 ②ノートに図や式を使って答えを求める考え方を書かせるようにする。 ③ノートの記述をもとに発表したり、確かめたりさせる。 ④意見交流活動・場面を設定し、学び合いの時間を確保していく。 ⑤発表ボード等を活用し、意見交換ができるようにする。
	2	児童のモチベーションを高める導入の工夫		
	3	発展・補充的問題の作成、机間指導による実態把握と支援		
	4	考えを書く(まとめる)指導の徹底		
	5	おはよう読書の実践、冊数・ページ数等目標値の設定		
	6	ICT機器やE黒板の活用		
	7	理科実験の充実・結果の考察等の考える学習の工夫		
	8	資料の図・表やグラフ等の読み取りへの支援とそれらを活用したまとめの工夫		
	9	個に応じたワークシートやヒントカードの工夫と活用		
学D 学習活動・評価の工夫	1	作図や表の作成、実験・観察カードの記録の仕方の指導	理科	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の意図や背景を理解、解釈、推論して解決する力、必要な情報を正確に取り出す力を高めることが必要である。 ・実験の手順や実験器具の使用など繰り返し行うことで確実に身に付けさせる必要がある。 ①予想や実験方法・結果から分かったことを考えさせ、考えたことを整理して書き表すことができるようにさせる。 ②実験・観察等の記録を正確に記入させていく。 ③各学年の育てるべき「問題解決の能力」を身に付けさせていく。
	2	ノート指導と定期的なノートチェックの実施		
	3	各教科における「体験的な学習」と「言語活動」の計画、実践		
	4	表現力・思考力を伸ばす意見交流の場の設定、実践		
	5	ゲストティーチャーやアシスタント、専科教員等との連携指導		
	6	授業後の評価(児童・教員)の実施と改善、指導		
学E 学級経営の充実	1	児童理解の充実		
	2	言語コーナーの活用(校内研究環境整備)		
	3	学習の遷移が分かる「情報コーナー」の充実		
	4	ノートや作品へのコメントの記入、学年内交流の充実		
	5	家庭学習の実施(ドリル、音読カード、自学ノート、日記、他)		

【取組の進行・管理、評価方法、時期】

- ①学期・単元を見通して週案を作成することで、教育課程の計画的な授業実践を行う。
- ②校内研究において国語科を中心とした「書く力」を伸ばすための取組を展開し、指導法の共有化を図る。
- ③学期ごとに「各学級の取組32」の振り返りをする。